

---

# 平成18年3月期中間決算 ご説明資料

---

2005年11月16日



**兼松株式会社**

**KANEMATSU CORPORATION**

・ 将来見通しに関する注意事項

資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、予想数値や施策などに関する記載については、不確実な要素を含んでおります。

## 目次

・平成18年3月期中間決算ハイライト	1
・平成18年3月期中間決算の概況	4
1．連結決算 収益の概況	5
2．連結バランスシート	13
3．連結キャッシュ・フロー	15
4．関係会社及び従業員の状況	17
5．(ご参考) 単体決算	19
・平成18年3月期業績見通し及び部門別説明	20
・平成18年3月期業績見通し	21
・IT部門	25
・食料部門	27
・鉄鋼・プラント部門	29
・ライフサイエンス・エネルギー部門	33
・繊維部門	37
(ご参考) 兼松グループの概要	39
・中期経営計画「NewKG200」について	40
・中期経営計画「NewKG200」について	41
(ご参考) 新生兼松の歩み	43
・参考資料(決算短信、貿易記者クラブ回答)	

# 平成18年3月期中間決算ハイライト

## 売上高・売上総利益・営業利益・経常利益いずれも前年同期比増加。

- ・ 売上高は 4,677 億円で前年同期比 8.2%の増収。
- ・ 売上総利益 352 億円、営業利益 80 億円と、いずれも前年同期比 3.4%、2.2%の増益。
- ・ 経常利益は 59 億円と前年同期比 3.3%増益で、過去 10 年の最高益を達成。
- ・ 中間純利益は、資産内容の一段の見直しを実施し、特別損失 309 億円を計上したことにより 242 億円。

## ネット有利子負債の削減は順調。NewKG200 最終年度目標をほぼ達成。

- ・ ネット有利子負債は 2,507 億円と前期末から 108 億円の削減、NewKG200 の最終年度末（平成 19 年 3 月末）目標の 2,500 億円を前倒しでほぼ達成。
- ・ 総資産は、有形固定資産などのリスク資産を大幅に圧縮した結果 4,858 億円に減少。
- ・ 自己資本は 192 億円。

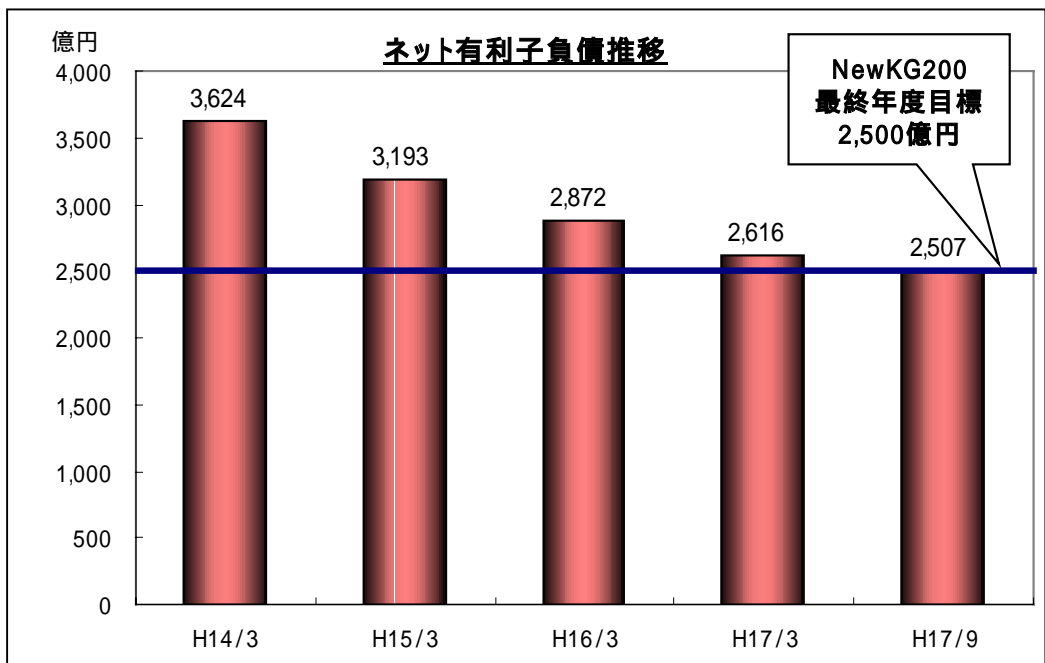
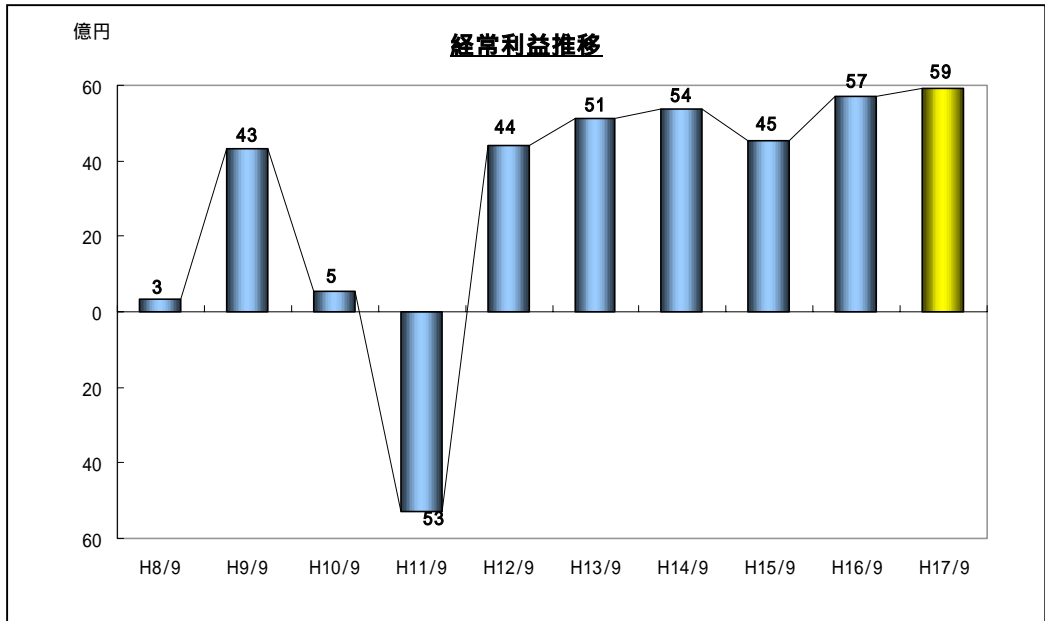


- ・ NewKG200 最終年度となる来期の収益力強化に向け更に前進。
- ・ 今期でほぼ全ての懸案を処理
- ・ 完全復活のための最終地固めにより、安定的な高収益体質への転換を図る。

(単位:百万円)

	平成16年9月期	平成17年9月期	前年同期比(増減率)	
売上高	432,408	467,676	35,268	8.2%
売上総利益	34,032	35,196	1,164	3.4%
営業利益	7,839	8,009	170	2.2%
経常利益	5,714	5,901	187	3.3%
中間純利益	1,525	24,213	25,738	-

	平成17年3月末	平成17年9月末	前期末比(増減率)	
総資産	520,118	485,768	34,350	6.6%
ネット有利子負債	261,560	250,734	10,826	4.1%
自己資本	38,029	19,153	18,876	49.6%
自己資本比率	7.3%	3.9%	3.4%	46.6%
ネットDER(倍)	6.9	13.1	6.2	89.9%



*MEMO*

## . 平成18年3月期中間決算の概況

## 1. 連結決算 収益の状況

「NewKG200」の最優先課題である営業基盤拡充が実を結び、売上高・売上総利益・営業利益・経常利益はいずれも前年同期比増加。

売上高は前年同期比 8.2%の増収。売上総利益は前期比 3.4%改善し、売上総利益率 7.5%と高水準を維持。システム開発投資による経費増もあり販管費は増加したが、効率経営に努めた結果、営業利益は 80 億円と前年同期比 2.2%の増益。経常利益は 59 億円と前年同期比 3.3%増益となり、過去 10 年の最高益を 2 年連続で更新。資産内容の一段の見直しに伴う特別損失の増加により中間純利益は 242 億円。

### (1) 売上高

- NewKG200 での営業基盤拡充への取組は着実に成果を上げ、殆ど全ての部門で増収。

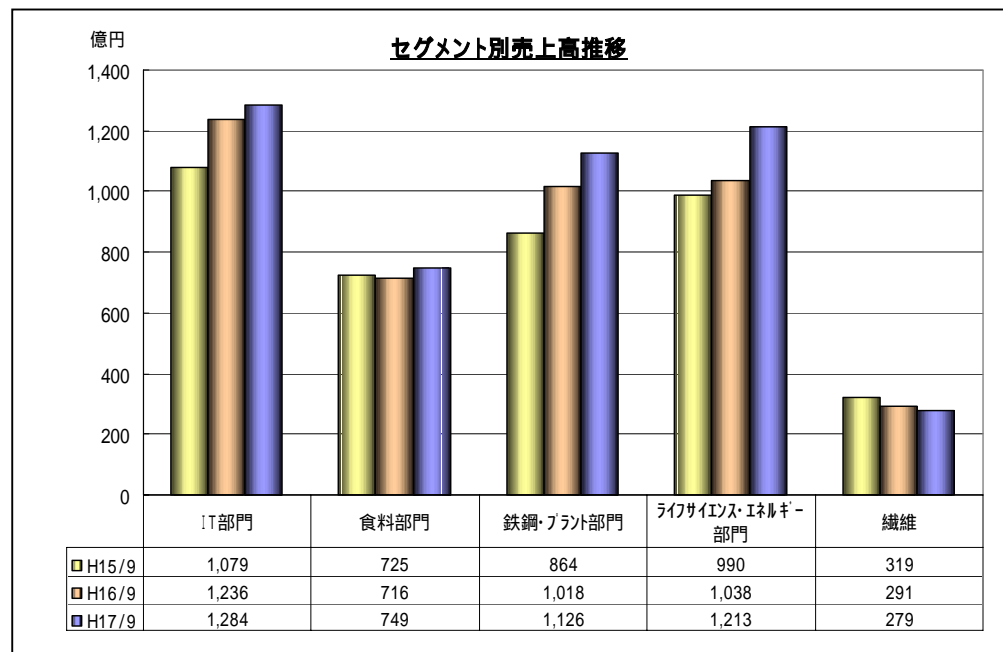
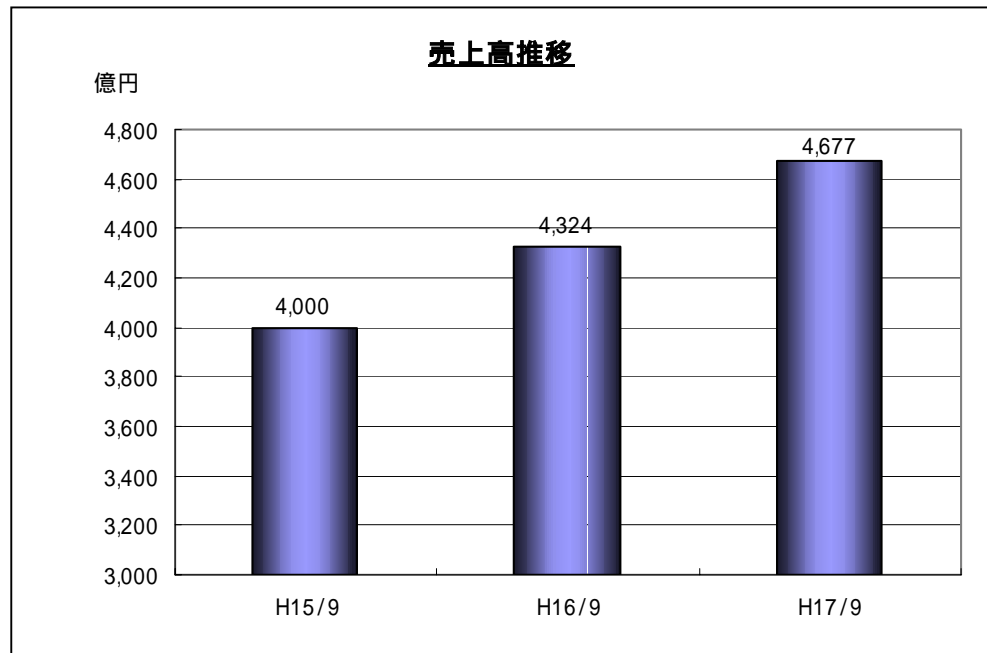
[単位:百万円]

	平成16年9月期		平成17年9月期		前年同期比	
	売上高対比		売上高対比		増減額	増減率
売上高	432,408	100.0%	467,676	100.0%	35,268	8.2%
売上総利益	34,032	7.9%	35,196	7.5%	1,164	3.4%
営業利益	7,839	1.8%	8,009	1.7%	170	2.2%
経常利益	5,714	1.3%	5,901	1.3%	187	3.3%
税引前中間純利益	2,758	0.6%	22,665	4.8%	25,423	-
中間純利益	1,525	0.2%	24,213	5.2%	25,738	-

[単位:百万円]

	平成16年9月期	平成17年9月期	前年同期比
I T 部門	123,624	128,362	4,738
食 料 部門	71,578	74,911	3,333
鉄 鋼	59,379	61,533	2,154
プ ラ ント	42,409	51,108	8,699
鉄鋼・プラント部門	101,788	112,641	10,853
エ ネ ル ギ ー	88,129	106,756	18,627
ラ イ フ サ イ エ ンス	15,687	14,574	1,113
ライフサイエンス・エネルギー部門	103,816	121,331	17,515
織 維	29,103	27,911	1,192
そ の 他	2,656	2,745	89
消去又は全社	160	229	69
合 計	432,408	467,676	35,268





## (2) 売上総利益

- 前年同期比 12 億円の増益。売上総利益率は 7.5%と引き続き高水準を維持。

[単位:百万円]

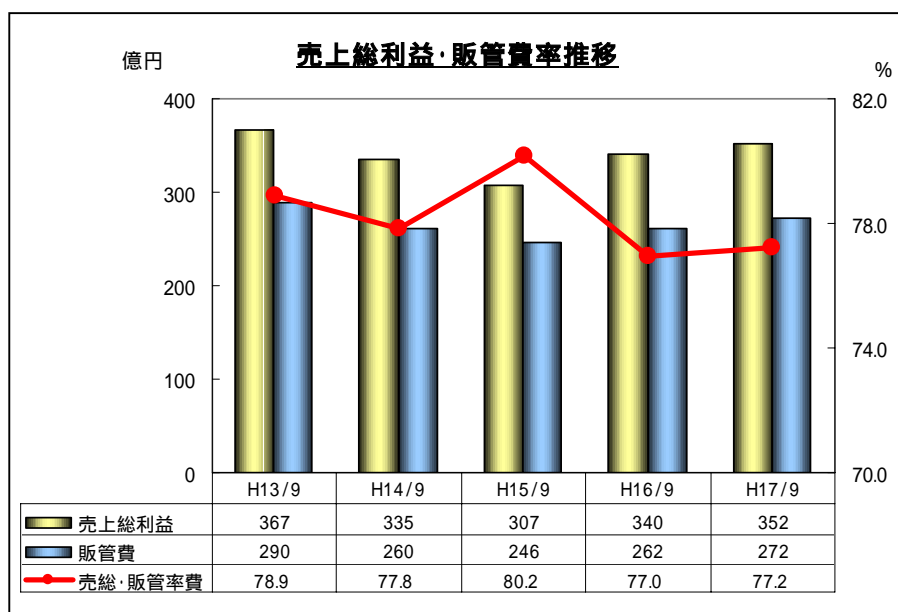
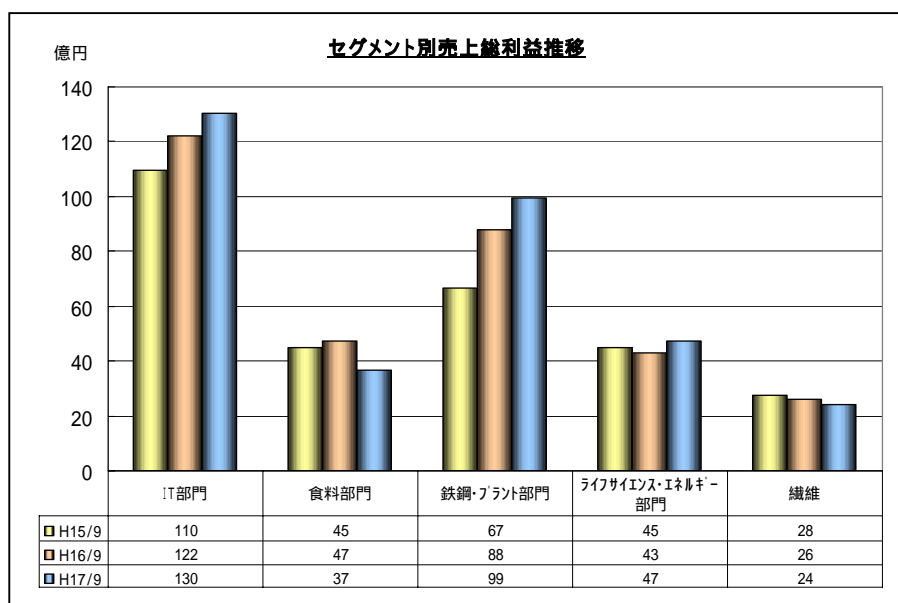
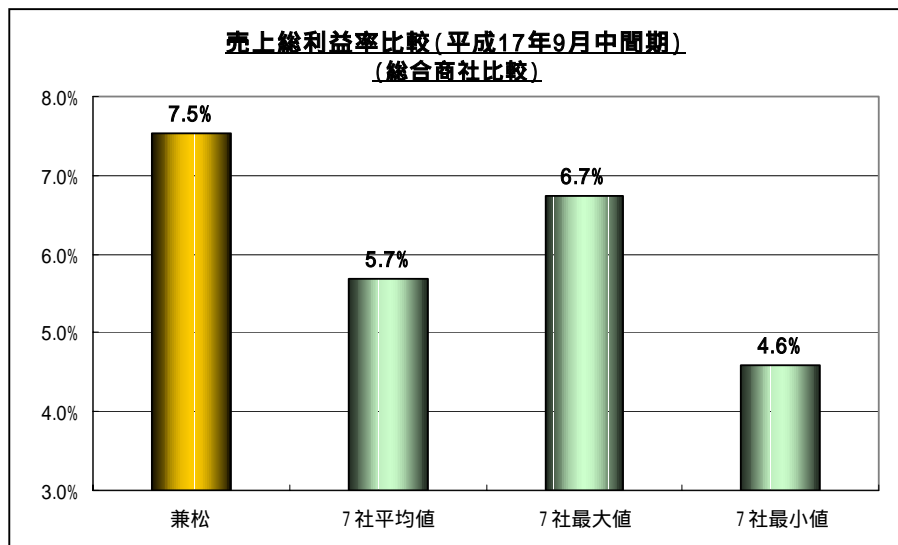
	平成16年9月期		平成17年9月期		前年同期比 実績	利益率 増減
	実績	利益率	実績	利益率		
I T 部門	12,209	9.9%	13,025	10.2%	816	0.3%
食 料 部門	4,722	6.6%	3,655	4.9%	1,067	1.7%
鉄 鋼	4,994	8.4%	4,975	8.1%	19	0.3%
プ ラ ント	3,776	8.9%	4,952	9.7%	1,176	0.8%
鉄鋼・プラント部門	8,771	8.6%	9,927	8.8%	1,156	0.2%
エ ネ ル ギ ー	3,069	3.5%	3,545	3.3%	476	0.2%
ライフサイエンス	1,250	8.0%	1,196	8.2%	54	0.2%
ライフサイエンス・エネルギー部門	4,320	4.2%	4,741	3.9%	421	0.3%
織 維	2,625	9.0%	2,392	8.6%	233	0.4%
そ の 他	1,386	-	1,455	-	69	-
消去又は全社	2	-	0	-	2	-
合 計	34,032	7.9%	35,196	7.5%	1,164	0.4%

## (3) 販売費及び一般管理費

- 売上高・売上総利益の増加に伴うものやシステム開発投資による経費増もあり増加したが、効率経営に努め販管費率は横這い。

[単位:百万円]

	平成16年9月期	平成17年9月期	前年同期比
人 件 費	13,009	13,727	718
物 件 費	13,184	13,459	275
販売費・一般管理費	26,193	27,187	994
売上総利益販管費率	77.0%	77.2%	0.2%



#### (4) 営業利益

- 前年同期比 2 億円の増益。

IT 部門は市況低迷による半導体関連の落ち込みにより前年同期比減少。

食料は豪州産牛肉の仕入値高騰と円安により収益低迷。穀物関連取引の採算厳しく減益。

プラントは工作機械取引が好調で増益。

[単位:百万円]

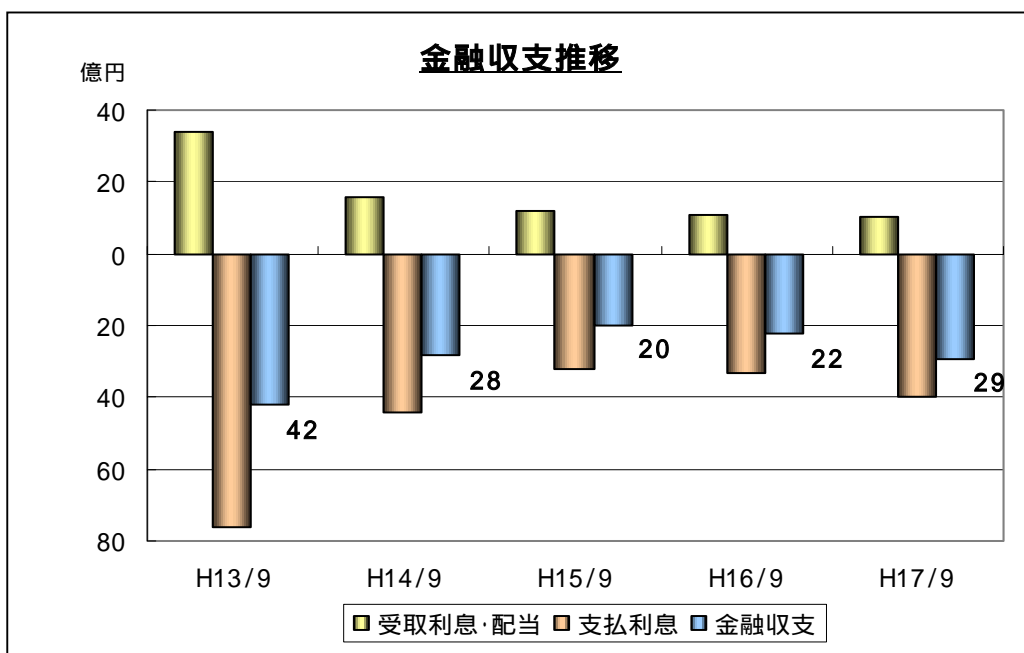
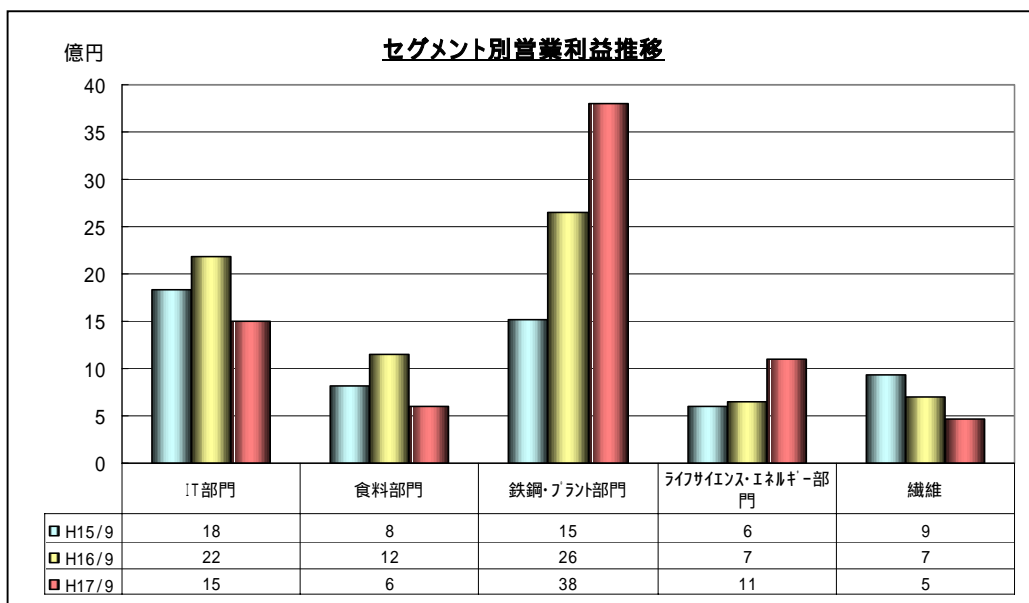
	平成16年9月期		平成17年9月期		前年同期比	
	実績	利益率	実績	利益率	実績	利益率増減
IT 部門	2,188	1.8%	1,503	1.2%	685	0.6%
食料部門	1,153	1.6%	595	0.8%	558	0.8%
鉄鋼	2,625	4.4%	2,607	4.2%	18	0.2%
プラント	19	0.1%	1,194	2.3%	1,175	2.2%
鉄鋼・プラント部門	2,644	2.6%	3,801	3.4%	1,157	0.8%
エネルギー	298	0.3%	767	0.7%	469	0.4%
ライフサイエンス	357	2.3%	328	2.3%	29	0.0%
ライフサイエンス・エネルギー部門	655	0.6%	1,095	0.9%	440	0.3%
繊維	706	2.4%	473	1.7%	233	0.7%
その他	490	-	535	-	45	-
消去又は全社	0	-	5	-	5	-
合計	7,839	1.8%	8,009	1.7%	170	0.1%

#### (5) 営業外収支

- ドル金利上昇の影響もあり金融収支は悪化するも、持分法損益及びその他(為替損益)の改善により全体では横這い。

[単位:百万円]

	平成16年9月期	平成17年9月期	前年同期比
受取配当金	642	538	104
受取利息	498	486	12
支払利息	3,310	3,956	646
金融収支	2,170	2,932	762
持分法損益	335	519	184
その他	290	304	594
営業外収支	2,125	2,108	17



## (6) 経常利益

- 前年同期比 2 億円増益の 59 億円。

[単位:百万円]

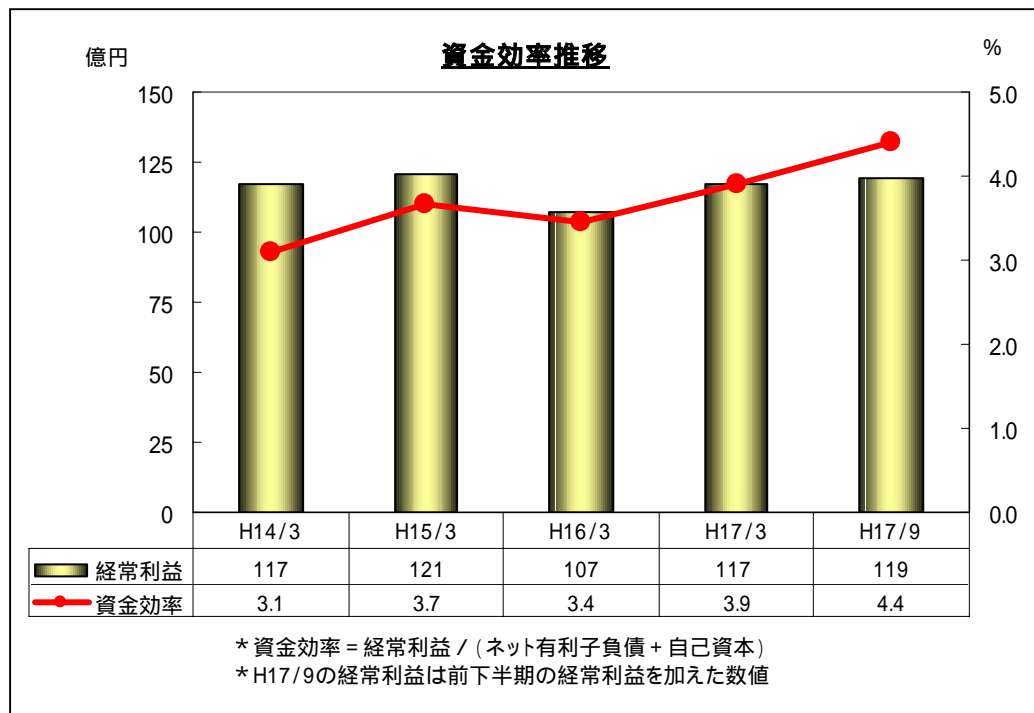
	平成16年9月期	平成17年9月期	前年同期比
経常利益	5,714	5,901	187
経常利益率	1.3%	1.3%	0.0%

## (7) 特別損益と中間純利益

- 第1四半期では 87 億円の減損を実施。
- 資産の更なる健全化を図るべく一段の見直しを行ない 309 億円の特別損失を計上。  
中間純利益は 242 億円の大幅な赤字。

[単位:百万円]

	平成16年9月期	平成17年9月期	前年同期比
投資有価証券売却益	232	247	15
事業譲渡益	-	1,339	1,339
その他の特別利益	111	748	637
特別利益	343	2,335	1,992
関係会社等事業整理損	162	415	253
関係会社等貸倒引当金繰入額	285	1,457	1,172
投資有価証券売却損	98	34	64
投資有価証券評価損	1,027	2,080	1,053
退職給付変更時差異償却	829	-	829
減損損失	-	14,480	14,480
特定事業債権貸倒引当繰入額	-	11,918	11,918
その他の特別損失	895	515	380
特別損失	3,298	30,902	27,604
特別損益	2,955	28,566	25,611
税引前中間純利益	2,758	22,665	25,423
法人税等及び少数株主損益	1,233	1,548	315
中間純利益	1,525	24,213	25,738



## 2. 連結バランスシート

ネット有利子負債は着実に削減を進めた結果 2,507 億円となり、NewKG200 最終年度目標を 1 年半前倒しでほぼ達成。自己資本は中間純利益が 242 億円の損失となったことから、192 億円と前期末比 189 億円の減少。その結果、自己資本比率 3.9%、ネット DER は 13.1 倍。

### (1) 有利子負債の状況

- ネット有利子負債は前期末比 108 億円削減。

[単位: 百万円]

	平成17年3月末		平成17年9月末		平成17年3月末比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
短期借入金	99,484	32.0%	108,897	37.5%	9,413	9.5%
長期借入金	211,332	68.0%	181,133	62.5%	30,199	14.3%
グロス有利子負債	310,816	-	290,031	-	20,785	6.7%
ネット有利子負債 (注1)	261,560	-	250,734	-	10,826	4.1%
総資産	520,118	-	485,768	-	34,350	6.6%
流動比率 (注2)	126.0%	-	116.3%	-	9.7%	7.7%

(注1) ネット有利子負債 = グロス有利子負債 - 現金及び預金

(注2) 流動比率 = 流動資産 / 流動負債

### (2) 自己資本の状況

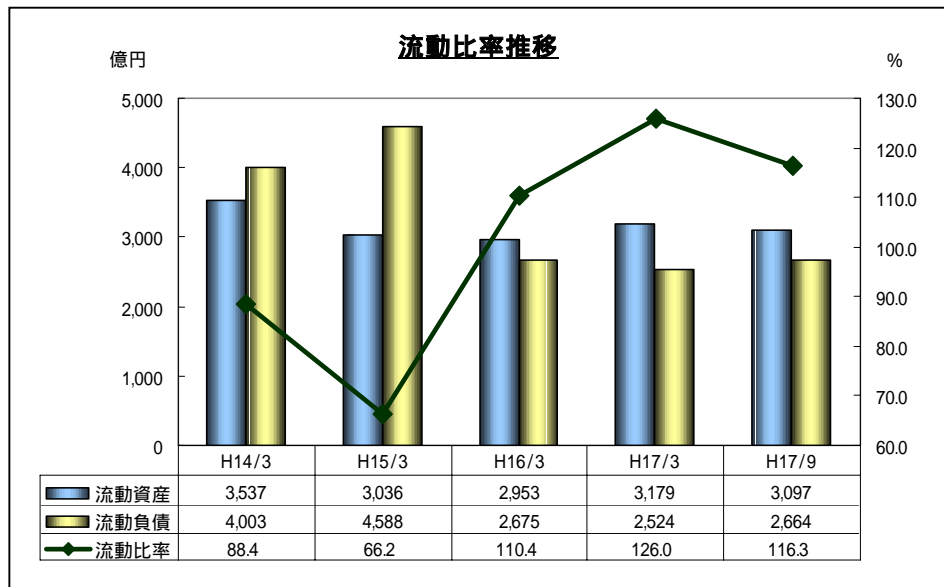
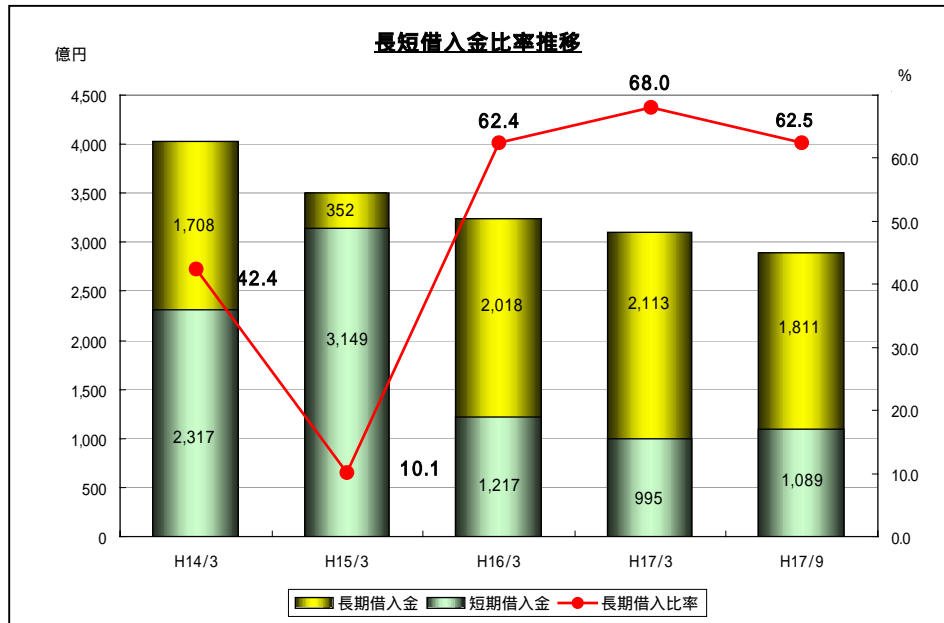
- 利益剰余金が 189 億円のマイナスとなったことから、前期末の 380 億円から 192 億円へ減少。

[単位: 百万円]

	平成17年3月末	平成17年9月末	平成17年3月末比	
			増減額	増減率
資本金	27,501	27,513	12	0.0%
資本剰余金	26,037	27,019	982	3.8%
利益剰余金	5,392	18,889	24,281	-
土地再評価差額金	58	58	0	0.0%
その他有価証券評価差額金	1,694	4,121	2,427	143.3%
為替換算調整勘定 (注)	21,504	19,497	2,007	-
自己株式	1,149	1,171	22	-
資本合計	38,029	19,153	18,876	49.6%
自己資本比率 (%)	7.3	3.9		
ネット DER (倍)	6.9	13.1		

(注) 為替レート: 平成17年3月末 107.39円 / US\$  
平成17年9月末 113.19円 / US\$





### (3) 資産勘定別明細

- 減損等により有形固定資産が大幅に減少。

[単位:百万円]

	平成17年3月末	平成17年9月末	平成17年3月末比	
			増減額	増減率
現金及び預金	49,256	39,296	9,960	20.2%
受取手形及び売掛金	148,551	147,611	940	0.6%
棚卸資産	71,172	77,253	6,081	8.5%
投資 <sup>(注)</sup>	71,670	76,022	4,352	6.1%
貸付金 <sup>(注)</sup>	30,624	30,236	388	1.3%
有形固定資産	69,395	56,345	13,050	18.8%
繰延税金資産	26,355	24,488	1,867	7.1%
その他	83,914	75,744	8,170	9.7%
貸倒引当金	30,821	41,229	10,408	-
総資産合計	520,118	485,768	34,350	6.6%

(注) 投資 = 有価証券 + 投資有価証券 貸付金 = 短期貸付金 + 長期貸付金

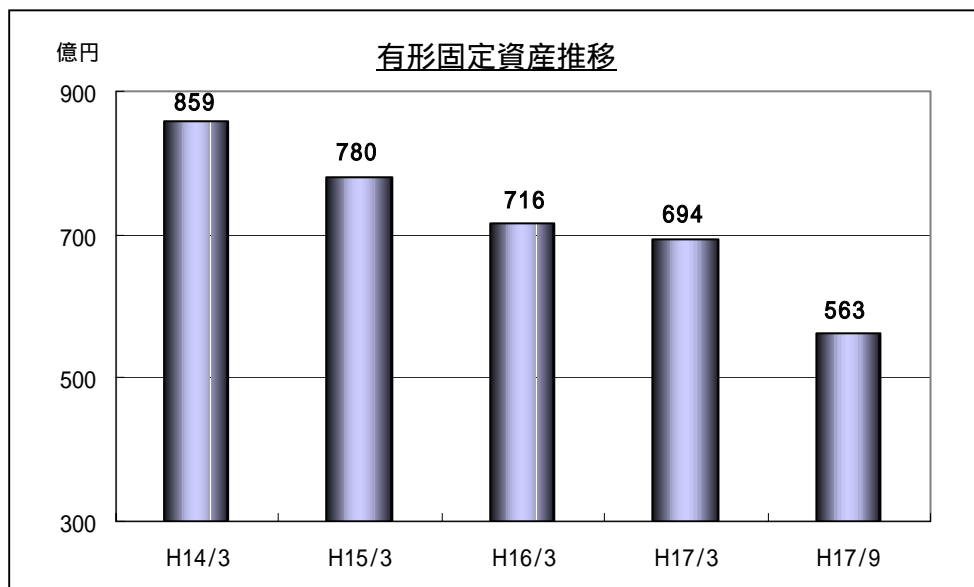
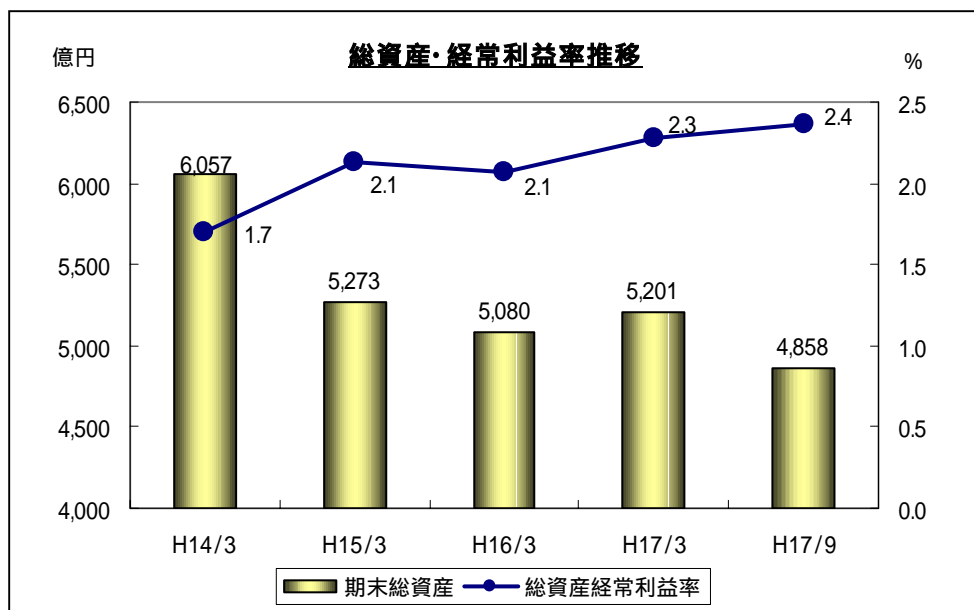
\* 以下の資産について減損損失を計上:

用途	場所	種類	金額(百万円)
賃貸不動産	神奈川県他	建物、土地等	10,395
事業用資産	山形県他	建物、土地等	955
遊休資産	茨城県他	土地	3,129
合計			14,480

### 3. 連結キャッシュ・フロー

[単位:百万円]

	平成16年9月期	平成17年9月期	前年同期比
営業利益プラス減価償却費	9,195	9,506	311
売上債権・棚卸資産・仕入債務の増減額等	2,038	1,808	3,846
利息・配当・法人税等の受取額、支払額等	3,276	1,949	5,225
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,881	13,264	9,383
投資活動によるキャッシュ・フロー	851	1,652	801
フリーキャッシュ・フロー合計	3,030	11,611	8,581
財務活動によるキャッシュ・フロー	841	22,165	21,324



#### 4. 関係会社及び従業員の状況

##### (1) 連結会社の黒字・赤字会社数推移状況

[単位:社]

	平成16年9月期					平成17年9月期					前年同期比
	連結		持分		合計	連結		持分		合計	
	国内	海外	国内	海外		国内	海外	国内	海外		
黒字会社	27	25	14	17	83	25	31	13	17	86	3
黒字会社比率(%)	66	81	56	85	71	60	84	52	85	69	2
赤字会社	14	6	11	3	34	17	6	12	3	38	4
合計	41	31	25	20	117	42	37	25	20	124	7

##### (2) 連結会社の黒字・赤字額推移状況

[単位:億円]

	平成16年9月期					平成17年9月期					前年同期比
	連結		持分		合計	連結		持分		合計	
	国内	海外	国内	海外		国内	海外	国内	海外		
黒字額	12	14	2	3	31	14	26	2	4	46	15
赤字額	5	6	2	0	13	123	8	1	0	132	119
合計	7	8	0	3	18	109	18	1	4	86	104

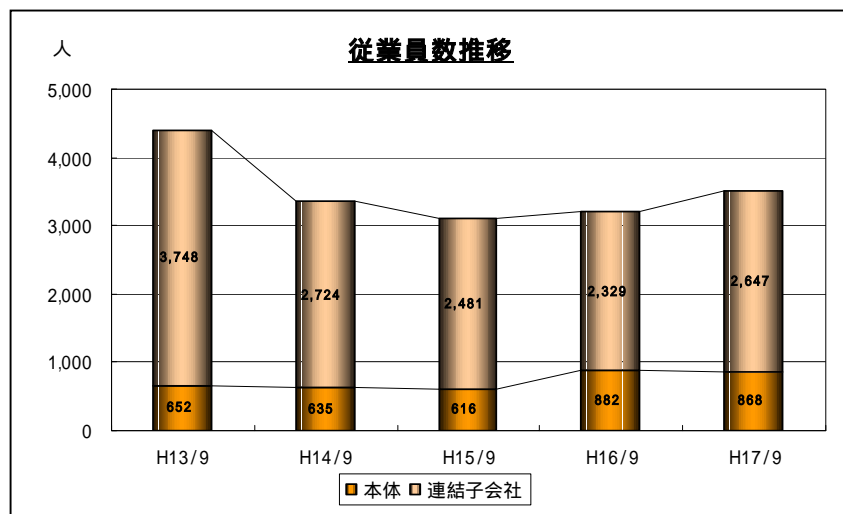
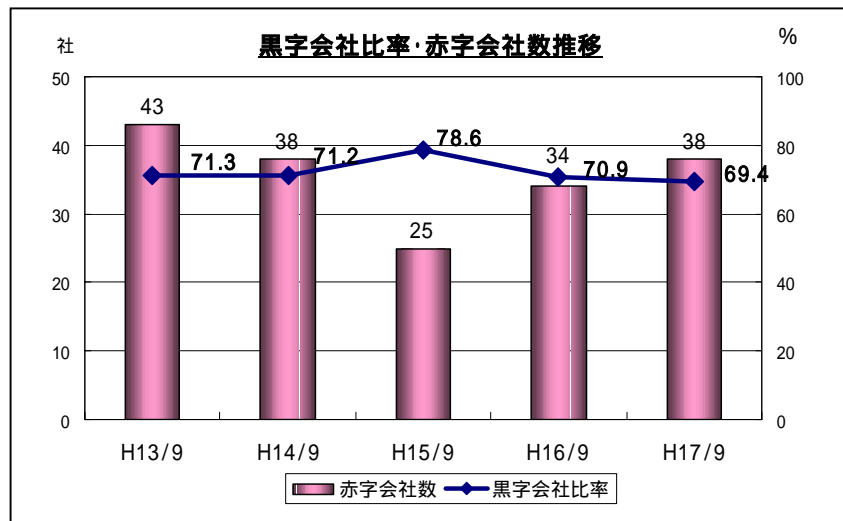
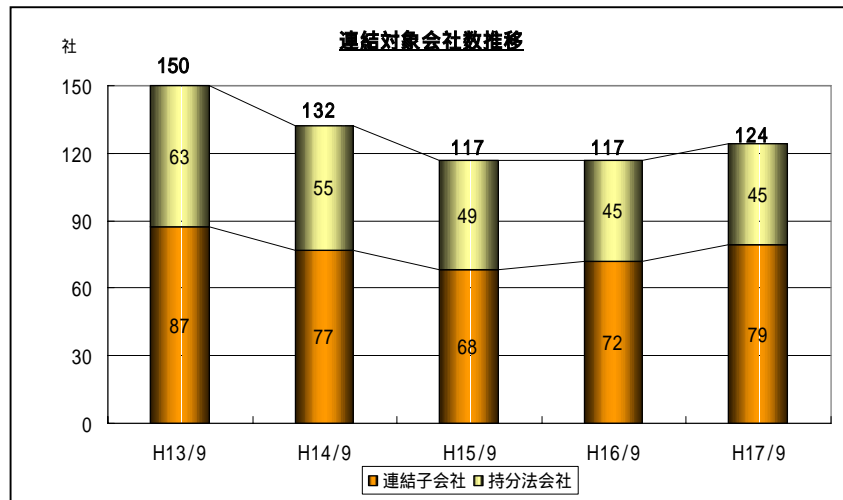
(注)連結調整を加味しない単純合算。

##### (3) 従業員の状況

[単位:人]

	平成16年9月末	平成17年9月末	平成16年9月末比	
			増減	増減率
単体	882	868	14	1.6%
連結子会社	2,329	2,647	318	13.7%
合計	3,211	3,515	304	9.5%

・連結子会社従業員数の増加は、今期より連結子会社となったメモレックス・テレックス(株)178人を含む。



## (ご参考) 単体決算

### 1. 収益の状況

[単位: 百万円]

	平成16年9月期		平成17年9月期		前年同期比	
		売上高対比		売上高対比	増減額	増減率
売上高	240,575	100.0%	253,675	100.0%	13,100	5.4%
売上総利益	10,530	4.4%	10,409	4.1%	121	1.1%
営業利益	2,592	1.1%	2,201	0.9%	391	15.1%
経常利益	2,596	1.1%	2,861	1.1%	265	10.2%
税引前中間純利益	278	0.1%	25,790	10.2%	26,068	-
中間純利益	675	0.3%	25,428	10.0%	26,103	-

### 2. バランスシート

#### (1) 総資産と有利子負債の状況

[単位: 百万円]

	平成17年3月期	平成17年9月期	平成17年3月末比	
			増減額	増減率
総資産	447,605	413,703	33,902	7.6%
グロス有利子負債	282,388	265,644	16,744	5.9%
ネット有利子負債	251,534	243,064	8,470	3.4%

#### (2) 自己資本の状況

[単位: 百万円]

	平成17年3月期	平成17年9月期	平成17年3月末比	
			増減額	増減率
資本金	27,501	27,513	12	0.0%
資本剰余金	25,947	26,619	672	2.6%
利益剰余金	8,902	16,526	25,428	-
その他有価証券評価差額金	1,219	3,242	2,023	166.0%
自己株式	93	103	10	-
資本合計	63,477	40,745	22,732	35.8%

**. 平成18年3月期業績見通し  
及び部門別説明**

## ・平成18年3月期業績見通し及び部門別説明

### ・平成18年3月期業績見通し

- 今期は新中期経営計画「NewKG200」の2年目として、「攻め」の姿勢をより強め、新規事業の育成、注力事業の伸長に取り組んでいる。当中間期の好調な収益を維持・向上させることにより、売上高9,150億円、経常利益135億円を確保、増収・増益路線を軌道に乗せる。
- 来期以降の成長を加速させるため、新規投資やM&Aによるコア事業の強化、グループシナジーの強化に向けた戦略を遂行していく。
- 当期純利益は200億円の赤字予想となるが、今期を以て、ほぼ全ての懸案を処理、完全復活のための最終地固めにより、来期以降の飛躍的成長を確実なものとする。
- 期末ネット有利子負債は2,500億円、自己資本は230億円を予想。資産内容の格段の健全化及び、来期以降の収益伸長による内部留保の進展により、早期に盤石な財務基盤の確立を目指す。

#### 売上高・売上総利益

- ・売上高は、3%増収の9,150億円の確保を最低目標とするが、当中間期の勢いを持続させることにより更なる上乘せも目指す。
- ・セグメント別では、IT部門は、航空機事業、モバイル・コンテンツ事業を中心に売上を伸ばすが、受注が急回復しつつある半導体装置関連も寄与する見込み。鉄鋼・プラント部門は前期並の売上確保を目標とするが、好調な事業環境を背景に目標大幅超過もあり得る。エネルギー・ライフサイエンス部門は、引き続き素材価格の高値推移が予想されるが、保守的に若干の増収見通しとする。食料部門は手堅く若干の増収を目標とする。
- ・高付加価値ビジネスの追求により、売上総利益730億円を確保、売上総利益率8%以上と高い収益性を維持・向上させる。

#### 販売費及び一般管理費・営業利益

- ・売上・売上総利益の増加に伴う販管費の増加、新基幹システム導入等若干の経費増を予想。但し、不断の経費削減努力を通じ販管費率を低減させる（目標70%）。
- ・これに伴い営業利益は前期比11%増益の175億円を計画とする。

#### 営業外収支・経常利益

- ・営業外収支は今後の内外金利動向や為替相場等の不透明要因はあるも有利子負債削減の継続及びヘッジ対策等により、その影響を最小限に留め前期並の40億円に抑える。
- ・経常利益は前期比15%増益の135億円を見込む。



平成18年3月期業績見通し

[単位:百万円]

	平成17年3月期 実績	平成18年3月期 見通し	前期比
売上高	886,876	915,000	28,124
売上総利益	68,142	73,000	4,858
売上総利益率	7.7%	8.0%	0.3%
販売費及び一般管理費	52,380	55,500	3,120
営業利益	15,762	17,500	1,738
営業外収支	4,042	4,000	42
経常利益	11,720	13,500	1,780
特別損益	6,883	29,000	22,117
税引前当期純利益	4,836	15,500	20,336
法人税他	2,366	4,500	2,134
当期純利益	2,469	20,000	22,469
ネット有利子負債	261,560	250,000	11,560
自己資本	38,029	23,000	15,029
ネットDER	6.9	10.9	4.0

セグメント別業績見通し

[単位:億円]

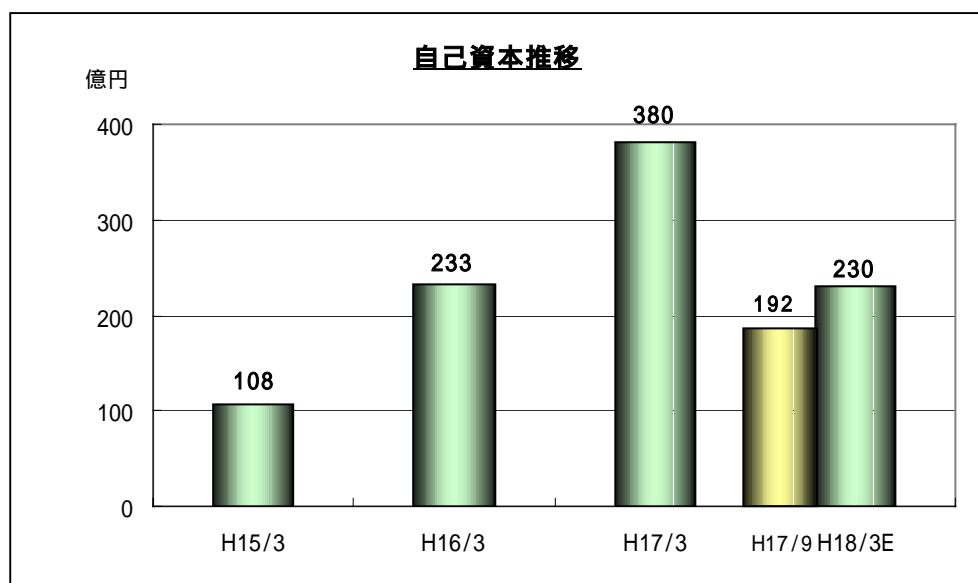
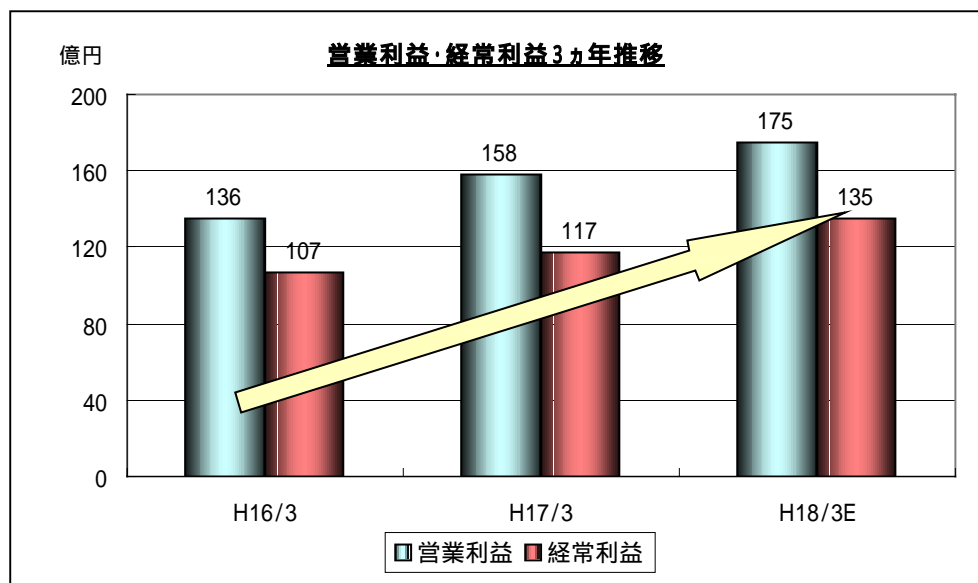
	売上高		売上総利益		営業利益	
	平成18年3月期 見通し	前期比	平成18年3月期 見通し	前期比	平成18年3月期 見通し	前期比
Ⅰ T 部門	2,650	+158	285	+46	50	+14
食料部門	1,400	+56	90	+4	25	+8
鉄鋼	1,200	+18	83	13	40	9
プラント	1,000	18	92	+1	18	+3
鉄鋼・プラント部門	2,200	+0	175	12	58	6
エネルギー	1,900	+18	72	+4	13	+1
ライフサイエンス	350	+26	28	+3	9	+2
ライフサイエンス・エネルギー部門	2,250	+44	100	+7	22	+3
繊維	600	+21	55	+5	15	+3
その他	50	+2	25	1	5	4
合計	9,150	+281	730	+49	175	+17

#### 特別損益・当期純利益

- ・ 通期の特別損益は 290 億円を見積もる。減損の概念の適用対象範囲を拡大し、有形固定資産及びその他時価が相当目減りしているものは、積極的に損失処理を行う。不動産市況の回復を捉えた売却処分を積極的に進めることにより、ポートフォリオの入れ替えを行い、経営資源配分をより攻めのモードにシフト。
- ・ 当期純利益は、200 億円の赤字見通しであるが、資産内容の格段の健全化を実現し、来期以降の飛躍的な成長を確実なものとする。

#### ネット有利子負債・自己資本

- ・ ネット有利子負債は、新中期経営計画の最終年度計画値を当中間期末に前倒しでほぼ達成しているが、下期は新規資金需要の増加も見込まれ、保守的に 2,500 億円の横這いを予想。
- ・ 自己資本は、下期利益による増加を見込み、230 億円を予想。
- ・ 自己資本比率 5%前後、ネット DER11 倍の見通しと、今期末段階では前期比悪化が見込まれるが、来期以降内部留保を加速させることにより早期の自己資本回復、並びに盤石な財務基盤の確立を目指す。



# I T 部 門

- 半導体市場を牽引したデジタル家電市場に加え、今後成長が見込まれるカーエレクトロニクス分野及びオプトエレクトロニクス分野での電子部品・部材・製造装置事業に注力する。
- カーエレクトロニクス分野では、車載通信機用 IC、カーナビ用電源 IC、カーオーディオ関連機器の取引拡大を図る。
- オプトエレクトロニクス分野では、携帯電話用マイクロレンズ事業を柱として、スクリーンユニット、光学エンジンブロック等のラインアップにより、新たな収益基盤を形成する。

## (1) 主な事業内容

事業	主な取扱商品	本社担当部	主な連結対象会社	連結売上高 (18/3期見通し)
電子部品・部材	半導体 半導体・液晶装置 通信関連機器・部品 電子部材・機構部品 光学デバイス	デバイスカンパニー 半導体部 電子機器部	-	1,420億円
モバイル・マルチメディア	携帯通信端末・モバイル	IT統括室	兼松コミュニケーションズ	1,065億円
航空宇宙	航空機・同部品	航空宇宙部	兼松エアロスペース	100億円
システム・ソリューション	コンピューター・ ネットワークシステム	IT統括室	Mレックス・テレックス	65億円
			兼松エレクトロニクス 日本オフィス・システム	(790億円)
			合 計	2,650億円

(注) 会社名の内、斜体は関係会社持分法損益で連結経常利益に貢献。  
括弧内は持分法適用会社売上高単純合計。

## (2) 平成18年3月期業績見通し

(単位: 百万円)

	平成17年3月期 実績	平成18年3月期 見通し	前期比
売上	249,170	265,000	15,830
売上総利益	23,858	28,500	4,642
売上総利益率	9.6%	10.8%	1.2%
営業利益	3,612	5,000	1,388
営業利益率	1.4%	1.9%	0.4%

## (3) 平成18年3月期の各事業の取組み・見通し(対前期実績比)

電子部品・部材事業(売上高19億円減、売上総利益12億円増)

- ・半導体事業は、車載用、携帯電話等通信機器用等、用途特定半導体関連商品の収益増を見込む。
- ・半導体装置事業は、業況スローダウンの期初見込に対し、台湾をはじめとする大手半導体メーカー向け受注が好調で、下期収益への貢献が期待される。
- ・電子部材・機構部品事業は、四輪・二輪用部品のOEM取引やプリンタOEM取引を中心に、引き続き欧米顧客向け取引を行うと同時に、今後は中国を中心としたアジアの顧客向け取引の伸長を図る。

- ・光学デバイス事業では、精密機器・光学レンズメーカーとの資本業務提携により海外でのマイクロレンズの独占販売権を取得。今後成長が期待される韓国、台湾、欧米等海外カメラ付き携帯端末市場向けの販売で収益に貢献する。
- ・アナログ無線機、電源 IC、半導体製造装置等の事業領域において、開発・設計等の機能に特化したファブレスでの取組みを推進中。従来型ビジネスモデルからの脱却を図り、川上に近いところからの事業創造を狙う。

モバイル・マルチメディア事業（売上高 77 億円増、売上総利益 6 億円増）

- ・移動体通信機器事業は、第 3 世代携帯電話の普及とナンバーポータビリティ開始に備え、個人顧客の囲い込みに注力し、販売代理店としての更なる地位向上を図る。先期より開始した CD/DVD レンタル事業者とのコラボレーション店舗運営が収益面に貢献し始めており、新ビジネスモデルとして強化を図る。
- ・情報コンテンツサービス事業は、国内の携帯コンテンツ事業者との提携を通じた収益基盤の安定化を実現しつつあり、移動体通信機器事業とのシナジー実現を図る。また米国市場においてもコンテンツサービス事業者としての地位を確立しており、今期は市場の急拡大とともに増収増益を見込む。

航空宇宙事業（売上高 34 億円増、売上総利益 5 億円増）

- ・長期の納入契約に基づき機材納入が堅調に推移。
- ・英国及び米国での循環部品補修取引も順調に推移中、業容拡大による収益の積み増しを図る。

システム・ソリューション事業（売上高 65 億円増、売上総利益 23 億円増）

- ・今期よりメモレックス・テレックス(株)を子会社化、ストレージ分野でのソリューション事業強化に注力中。

#### （４）平成 17 年 9 月中間期実績

	平成16年9月 中間期実績	平成17年9月 中間期実績	[単位:百万円] 前年 同期比
売上	123,624	128,362	4,738
売上総利益	12,209	13,025	816
売上総利益率	9.9%	10.1%	0.2%
営業利益	2,188	1,503	685

#### 売上高・売上総利益

売上高	電子部品・部材事業	45 億円減
	モバイル・マルチメディア事業	25 億円増
	航空宇宙事業	42 億円増
	システム・ソリューション事業	26 億円増
売上総利益	電子部品・部材事業	7 億円減
	モバイル・マルチメディア事業	2 億円増
	航空宇宙事業	4 億円増
	システム・ソリューション事業	9 億円増
営業利益	電子部品・部材事業の減益を航空宇宙事業始め他の事業にてカバーし、全体では 7 億円減。	

#### 総括

当中間期は半導体市況の調整局面にあたり半導体事業においては減収減益。半導体装置、航空宇宙、各種部品 OEM 取引、モバイル・マルチメディア等が下支えして減収幅を抑え、その他新規事業も徐々に立ち上がりつつある。

## 食 料 部 門

- 顧客・消費者ニーズを先取りする新規商品の開発及び提案型取引に引続き注力。
- 原料調達から加工までの一貫体制を構築し、「トレイサビリティ」「安心・安全」及び「高品質」を確保した差別化商品の提供。
- 連結子会社の飼料販売事業を「アグリカンパニー」に統合したことで、営業のシナジー効果を高めると共に、グループとしての経営効率の向上と事業価値の最大化を目指す。

### (1) 主な事業内容

事業	主な取扱商品	本社担当部	主な連結対象会社	連結売上高 (18/3期見通し)
食 品	缶詰・冷凍・乾燥フルーツ、 コーヒー、ココア、砂糖、 ゴマ、落花生、雑豆、 ワイン、他	食品第一部 食品第二部	兼松食品	180億円
			日本リカー	(30億円)
畜 水 産	畜産物、水産物	畜水産部	兼松食品、ニッポン食品	570億円
飼料酪農・穀物	飼料、肥料、 大豆、小麦、大麦、米、 加工食品、ペットフード、他	アグリカンパニー 穀物部	兼松アグリテック セイポリ・ジャポン	650億円
			合 計	1,400億円

(注)会社名の内、斜体は関係会社持分法損益で連結経常利益に貢献。  
括弧内は持分法適用会社売上高単純合計。

### (2) 平成18年3月期業績見通し

(単位:百万円)

	平成17年3月期 実績	平成18年3月期 見通し	前期比
売 上	134,388	140,000	5,612
売上総利益	8,644	9,000	356
売上総利益率	6.4%	6.4%	-
営業利益	1,711	2,500	789
営業利益率	1.3%	1.8%	0.5%

### (3) 平成18年3月期の各事業の取組み・見通し(対前期実績比)

食品事業(売上高横這い、売上総利益横這い)

- ・ 加工フルーツ・野菜の中国新合併工場が本格稼働。日本市場のみならず米国向け販売を伸ばし、収益を積み上げる。
- ・ ブルーマウンテンコーヒーは需要堅調。大手生産農家とのアライアンス構築により安定的な供給体制を確立、マーケットシェアの維持拡大を図る。
- ・ ヨーグルト用アロエは、品質向上及び量産体制を図るため、海外に新工場を建設中。商権の安定化と更なる販売増を目指す。

畜水産事業(売上高56億円増、売上総利益2億円増)

- ・ 海外での鳥インフルエンザ発生が相次ぐ中、被害の無いブラジル産鶏肉に注力。国内マーケットへの安定供給により収益を積み上げる。

- ・ 豚肉は、カナダ産黒豚が高付加価値商品として定着、順調に拡販。
- ・ 中国産高級牛肉の加工・販売を行う合弁会社を大連に設立。中国大都市圏を中心とした高級牛肉需要を取り込む。
- ・ 水産事業では、東南アジア地域で水産加工拠点を確保し、冷凍魚加工品を中・外食向けに拡販することで、収益力を向上させる。
- ・ 牛肉、タコ・海老については、上期国内市況が低迷したが、年末需要もあり、下期市況は回復しつつある。

#### 飼料酪農・穀物事業（売上高横這い、売上総利益 2 億円増）

- ・ 飼料事業は、前期において連結子会社の兼松アグリテック(株)の配合飼料販売事業を本社に統合。飼料原料の調達から製品販売まで一貫して取り扱う社内カンパニーとして順調な立ち上がり。
- ・ BSE 対策として、鶏・豚用と牛用の配合飼料製造を完全分離。牛専用飼料工場を上期に稼働。安全且つ高品質の製品を提供することで更なる取引伸長を狙う。
- ・ 牧草・粗飼料取引は、メガファームとの連携を図り、販売増を見込む。
- ・ 豪州牧草製造業者に出資、設備補強・製造能力をアップの上、牧草の安定供給による拡販を図る。
- ・ 抗菌剤に頼らない畜産、環境にやさしい畜産をテーマに乳酸菌入配合飼料の販売拡大を目指す。
- ・ 穀物関連事業は一層のコストダウンにより引続き採算改善に努める。高級ベーカリー向け商材の販売は、チェーン店舗増設により、順調に拡大しつつあり、安定的収益の確保を目指す。

#### （４）平成 17 年 9 月中間期実績

	平成16年9月 中間期実績	平成17年9月 中間期実績	[単位:百万円] 前年 同期比
売上	71,578	74,911	3,333
売上総利益	4,722	3,655	1,067
売上総利益率	6.6%	4.9%	1.7%
営業利益	1,153	595	558

##### 売上高・売上総利益

売上高 食品 6 億円減、畜水産 33 億円増、穀物・飼料酪農 6 億円増

売上総利益 食品 3 億円減、畜水産 2 億円減、穀物・飼料酪農 5 億円減

##### 営業利益

畜水産、穀物関連の不振により営業利益は前年同期比 5 億円の減益となった。

##### 総括

- ・ 飼料酪農事業は、飼料主原料コーン、及び副原料である大豆粕は好調。供給過剰感のある牧草ならびに魚粉が不調で、収益微減。
- ・ 食品事業は、フルーツ・コーヒー等の原料高ならびに円安により利益率低下。
- ・ 畜水産事業は、販売数量は伸びたが、海外相場高を国内販売価格に転嫁出来ず、増収なるも減益。

## 鉄鋼・プラント部門

### <鉄鋼>

- 伝統的に基盤のある中東向け鋼材の品種増に注力し規模拡大を図る。
- 自動車部品用関連鋼材は欧米共に好調でさらに推進させる。
- 中国製鉄業界の需要は引き続き旺盛、インド産鉄鉱石の対中取引は大幅増加の見込み。
- ベトナムでの造船事業が堅調に推移、造船用鋼材の供給取引を伸長させる。

### <プラント>

- 「プロジェクト組成型ビジネス」の追求をテーマに案件組成、成約積上げを推進中。
- 好調に推移している自動車・船舶取引に加え、水関連プラント、地熱発電、海底ケーブル等の得意事業及び、東南アジア・中国・イラン等の得意地域に注力し高付加価値取引を伸長させる。
- 工作機械・産業機械は、市況好調にて大幅増収・増益を見込む。更に、中国他海外展開の拡充、及びサービス機能強化による営業基盤の拡充を図る。

### (1) 主な事業内容

	事業	主な取扱商品	本社担当部	主な連結対象会社	連結売上高 (18/3期見通し)
鉄鋼	鉄鋼貿易 鉄鋼原料	ステンレス、表面処理鋼板、 シームレスパイプ、コークス	鉄鋼貿易部	SSOT	690億円
	自動車関連鋼材	精密鍛造品、自動車部品	自動車関連鋼材部	-	110億円
	国内鉄鋼	鉄鋼製品全般	鉄鋼統括室	兼松トレーディング	400億円
プラント	プラント・輸送機	各種プラント、自動車、 船用機器、ODA	プラント部 輸送機部	-	430億円
	ケーブル・ 電力プロジェクト	通信案件、光ファイバー、 電力プロジェクト	ケーブル・電力プロジェクト部	-	50億円
	工作機械・産業機械	工作機械、産業機械	機械統括室	兼松K G K	520億円
			合 計		2,200億円

### (2) 平成18年3月期業績見通し

(単位:百万円)

		平成17年3月期 実績	平成18年3月期 見通し	前期比
鉄鋼	売上	118,159	120,000	1,841
	売上総利益	9,618	8,300	1,318
	売上総利益率	8.1%	6.9%	1.2%
	営業利益	4,930	4,000	930
	営業利益率	4.2%	3.3%	0.8%
プラント	売上	101,837	100,000	1,837
	売上総利益	9,075	9,200	125
	売上総利益率	8.9%	9.2%	0.3%
	営業利益	1,513	1,800	287
	営業利益率	1.5%	1.8%	0.3%



### (3) 平成18年3月期の各事業の取組み・見通し(対前期実績比)

#### <鉄鋼>

- ◆ 鉄鋼貿易・原料事業(売上高10億円増、売上総利益横這い)
  - ・中東向け輸出鋼材の品種増に注力し、規模拡大を図る。
  - ・米国での石油掘削関連鋼材の販売事業は、世界的なエネルギー不足の追い風を受け順調に伸長。
  - ・米国及び中国におけるサービスセンターを活用し各種鋼材の拡販を図る。
  - ・ベトナムでの造船事業が堅調に推移しており、造船用鋼材の供給を安定化させる。
  - ・中国製鉄業界の鉄鋼原材料に対する需要は引き続き旺盛であり、インド産鉄鉱石の対中取引は大幅増の見込み。
- ◆ 自動車関連鋼材事業(売上高10億円増、売上総利益横這い)
  - ・自動車部品用関連鋼材は欧米とも好調であり、売上・収益とも増加する見通し。
  - ・高強度・高精度な自動車用特殊鍛造部品の開発を欧米有力自動車メーカーと共同で取り組んでいる。
- ◆ 国内鉄鋼事業(売上高、売上総利益とも横這い)
  - ・収益性の高い品種構成への転換を図り、利益率向上を目指す。また、関係会社と共にグループ全体で効率化を図り競争力の強化を図る。

#### <プラント>

##### プラント・輸送機事業(売上高横這い、売上総利益横這い)

- ・輸送機事業は、ベトナム向け船舶用機器や中国・東南アジア向け自動車関連輸出入取引が好調に推移中。前期に複数案件を連続受注したベトナム新造船取引は、日本船主に加え今上期に海外船主からの受注にも成功、市場の裾野を拡大中。
- ・プラント事業は、製紙プラントや水・環境関連設備を中心に成約残高を積み上げた。

##### ケーブル・電力プロジェクト事業(売上高横這い、売上総利益横這い)

- ・ケーブルプロジェクト事業は、光ファイバー等通信部材や送電線等の輸出に加え、東南アジアでのブロードバンドネットワークや携帯電話網の構築事業に取り組む。
- ・電力プロジェクト事業は、フィリピン、インドネシアで環境に優しい地熱発電や海底ケーブル等の案件を複数成約済み。
- ・地熱発電や海底ケーブルに加え、バイオマス発電やクリーン開発メカニズム(CDM)による排出権獲得に絡めた新規ビジネスを推進中。

##### 工作機械・産業機械事業(売上高横這い、売上総利益2億円増)

- ・工作機械市場は、国内外とも好調で、海外については、中国・東南アジア拠点の整備・拡充を進めている。

#### (4) 平成17年9月中間期実績

< 鉄鋼 >

[単位:百万円]

	平成16年9月 中間期実績	平成17年9月 中間期実績	前年 同期比
売上	59,379	61,533	2,154
売上総利益	4,994	4,975	19
売上総利益率	8.4%	8.1%	0.3%
営業利益	2,625	2,607	18

売上高・売上総利益

売上高 鋳鍛造品事業 20億円増、鉄鋼貿易・原料事業及び  
国内鉄鋼事業 横ばい  
売上総利益 鋳鍛造品事業 3億円増、鉄鋼貿易・原料事業及び  
国内鉄鋼事業 微減

営業利益

各事業ともほぼ横ばい

総括

- ・ 鋳鍛造品事業は好調。
- ・ 鉄鋼市場の高騰による売上高好調が続行。

< プラント >

[単位:百万円]

	平成16年9月 中間期実績	平成17年9月 中間期実績	前年 同期比
売上	42,409	51,108	8,699
売上総利益	3,776	4,952	1,176
売上総利益率	8.9%	9.7%	0.8%
営業利益	19	1,194	1,175

売上高・売上総利益

売上高 プラント・輸送機 21億円増、電力・通信関連 10億円増  
工作機械・産業機械 56億円増  
売上総利益 プラント・輸送機 2億円増、電力・通信関連 微増  
工作機械・産業機械 9億円増

営業利益

各事業とも増収、粗利増加により大幅増益

総括

- ・ 好調な市場環境に支えられ、工作機械・産業機械事業が増収増益基調を持続。
- ・ プラント・輸送機事業や電力通信関連事業においても、成約済案件を確実に遂行し増収増益を達成。

**MEMO**

## ライフサイエンス・エネルギー部門

### < エネルギー >

- 石油製品事業は、国際市況高騰による需要停滞で厳しい環境が続いているが、当社の強みであるタンクオペレーションの一層の効率化により収益確保を図る。事業戦略としては、セルフスタンドなどの川下展開、及び北東アジア向けの輸出・三国間取引の拡大を図ることにより収益力を強化。
- ESCO(省エネ支援事業)を次代の収益の柱へと育成すべく営業活動を積極的に展開中。

### < ライフサイエンス >

- 機能性化学品事業については、太陽電池関連等環境分野で新規商材の開発に注力。肥料原料・石油化学品取引等、既存商権についてはマーケット及び顧客層の拡大により収益伸長を見込む。
- ヘルスケア事業については、健康食品市場拡大のトレンドに沿い、話題の リポ酸・クレアチンの拡販に注力中。新商品の開発から市場化、及び安全性確保に至る一連のビジネスラインを構築し、収益力の強化を図る。

### (1) 主な事業内容

	事業	主な取扱商品	本社担当部	主な連結対象会社	連結売上高 (18/3期見通し)
キ エ ネ ー リ ー	原油・石油製品・ガス	原油、石油製品、 LPG	エネルギー部	兼松ペトロ	1,900億円
サ ラ イ エ ィ ン ス	機能性化学品	電池原料、肥料原料、 接着剤材料、溶剤	機能性化学品部	兼松ケミカル	280億円
	ヘルスケア	機能性食品素材、スター リミルク、栄養補助食品	ライフサイエンス部	兼松ウェルネス	50億円
	医薬品	医薬品・医薬中間体		-	20億円
				合 計	2,250億円

### (2) 平成18年3月期業績見通し

(単位:百万円)

		平成17年3月期 実績	平成18年3月期 見通し	前期比
エ ネ ル ギ ー	売 上	188,155	190,000	1,845
	売上総利益	6,801	7,200	399
	売上総利益率	3.6%	3.8%	0.2%
	営業利益	1,157	1,300	143
	営業利益率	0.6%	0.7%	0.1%
ラ イ フ サ イ エ ィ ン ス	売 上	32,408	35,000	2,592
	売上総利益	2,475	2,800	325
	売上総利益率	7.6%	8.0%	0.4%
	営業利益	720	900	180
	営業利益率	2.2%	2.6%	0.3%

### (3) 平成18年3月期の各事業の取組み・見通し(対前期実績比)

#### <エネルギー>

原油・石油製品・ガス事業(売上高18億円増、売上総利益4億円増)

- ・ 原油については、国際市況の高騰が続く中、中東油種の対日安定供給に貢献しつつ安定収益を確保する。
- ・ 石油製品については、効率的なタンクオペレーションの推進により安定収益を確保。ガソリンスタンド事業においても、市況上昇下での適正マージンの確保と、近年進めて来たセルフスタンド増設による商量拡大により、増収・増益を図る。
- ・ 海外戦略については、常態化している海外市況高の下、本邦石油会社のニーズに応じた機動的な製品輸出を促進し、主に韓国・中国への商量拡大を図っている。今後、ベトナム・フィリピン等への輸出事業を強化し一層の拡販を目指す。
- ・ LPGについては、産業用LPGのバルク事業(複数の小口ユーザーへの一括配送システム)を中心に高収益を維持している。
- ・ ESCO(省エネ支援事業)については、石油全般の価格高騰・高止りによる燃料価格高騰下、割安で低環境負荷の天然ガス導入を柱とする燃料転換を顧客に提案中。

#### <ライフサイエンス>

機能性化学品事業(売上高5億円増、売上総利益1億円増)

- ・ ベトナムを中心とした肥料原料、線香原料の輸入取引は好調に推移。中国向けリチウム電池原料取引及び米国向け太陽電池材料取引も拡大基調。
- ・ 新規案件として、下期にはベトナム産ボーキサイト鉱石の輸入を開始。

ヘルスケア事業(売上高12億円増、売上総利益1億円増)

- ・ リポ酸、クレアチン等の機能性食品素材の受注が好調に推移。更にスポーツサプリメントの拡販に注力。
- ・ 新規商品として開発した乳酸菌「ラクセルフォース」は、食料部門との協業により配合飼料として販売。
- ・ スターリミルク関連取引は、新製品の投入を梃子に、販路・顧客層の拡大を図る。

医薬品事業(売上高8億円増、売上総利益1億円増)

- ・ 中国・インド・東欧のジェネリック医薬品の輸入・国内販売を積極的に展開。
- ・ 中東・アジア地域向け医薬品バルク輸出取引は好調に推移中。

#### (4) 平成17年9月中間期実績

##### <エネルギー>

[単位:百万円]

	平成16年9月 中間期実績	平成17年9月 中間期実績	前年 同期比
売上	88,129	106,756	18,627
売上総利益	3,069	3,545	476
売上総利益率	3.5%	3.3%	0.2%
営業利益	298	767	469

##### 売上高・売上総利益

売上高 販売量増加に油価上昇が相俟って、186億円の増収  
 売上総利益 価格転嫁の進展により、増益

##### 営業利益

販管費をほぼ横這いで維持したことにより大幅増益

##### 総括

- ・ 国際エネルギー価格の高騰が続く下、国内外での拡販とマージン確保により、上期は大幅な増収増益を達成。

##### <ライフサイエンス>

[単位:百万円]

	平成16年9月 中間期実績	平成17年9月 中間期実績	前年 同期比
売上	15,687	14,574	1,113
売上総利益	1,250	1,196	54
売上総利益率	8.0%	8.2%	0.2%
営業利益	357	328	29

##### 売上高・売上総利益

売上高 機能性化学品事業 15億円減、ヘルスケア事業 3億円増  
 医薬品事業 1億円増

売上総利益 機能性化学品事業 微減、ヘルスケア事業 微減  
 医薬品事業 微減

##### 営業利益

販管費を横這いに抑えたことにより、営業利益も横這いを維持

##### 総括

- ・ 肥料原料取引、電池原材料取引等の既存取引が好調に推移。
- ・ リポ酸、クレアチン等の機能性食品素材は順調に受注。
- ・ 中東・東南アジア向け医薬品輸取引は堅調に推移。

MEMO

## 繊維部門

- 「オリジナリティ」「ファッション」をキーワードとした提案型ビジネスに注力。
- 「原料・素材の発掘・調達から生地・製品の提案まで」とのビジネスモデルをグローバルネットワークを駆使して確立。
- 資本参加を含めた新規ブランドの導入、自社企画・生産による独自ブランド開発に注力。

### 事業戦略

- ・ 市場戦略 SPA・小売の重視(国内)、欧米・中国の重視(海外)
- ・ 商品戦略 ブランド・ファッションの重視
- ・ 物づくり戦略 ファブレスメーカーとしての機能強化、素材・企画、提案力の強化、物流機能の構築

### (1) 主な事業内容

事業	主な取扱商品	主な連結対象会社	連結売上高 (18/3期見通し)
製 品	布帛・ニット・カットソー衣料品、 ドレス・カジュアル・シャツ、 スポーツ衣料、シューズ、 デニム製品	兼松繊維 兼松(上海)有限公司 Kanematsu Textile(HK) Kanematsu Italia S.p.A Kanematsu Textile USA Inc. 台湾兼松股份有限公司 ケージーガーメントサプライ	400億円
素 材	各種織物・編糸、 綿・合繊維物、 非衣料向け機能素材		200億円
合 計			600億円

### (2) 平成18年3月期業績見通し

(単位:百万円)

	平成17年3月期 実績	平成18年3月期 見通し	前期比
売 上	57,926	60,000	2,074
売上総利益	5,031	5,500	469
売上総利益率	8.7%	9.2%	0.5%
営業利益	1,187	1,500	313
営業利益率	2.0%	2.5%	0.5%



### (3) 平成18年3月期の取組み・見通し

#### 製品事業

- ・製販融合（コラボレーション）を推進し、営業力を高める。素材調達から生産までの一貫生産機能に企画・提案力を組み合わせ、各種展示会を通じ商品提案等を行う「提案型OEM」に代表される主体的・高収益取引を推進する。
- ・イタリアのサッカー・フットサル・テニスの人気スポーツブランド「Lotto Sport Italia」、アウトドアの「Lowe Alpine」・「ASOLO」(伊)、イタリアのデニムブランド「J4DENIM(ジェイフォデニム)」、米国のデイパックを中心とした大型ブランド「JANSPORT」等既存ブランドの浸透を図る。
- ・新たにクライミング基軸の米国アウトドア系カジュアルブランド「Gramicci(グラミチ)」、英国雑貨ブランド「Cath Kidston(キャスキドソン)」を投入。
- ・SPA型事業「Plastic Girl」を立ち上げ、直営店展開を開始。

#### 素材事業

- ・デザイン・企画力で付加価値を高めた米国向プリント織物輸出及び欧州向テキスタイル輸出で強味を發揮。
- ・マレーシア・インドネシアにおける合弁会社からの欧州・アジア・中東地域へのテキスタイル輸出に注力。
- ・ヨーロッパ最大のナイロンメーカー 伊/Nylstar社 製ナイロン素材系「Meryl」を使用したオリジナル開発商品は既に多くの大手アパレルブランドで採用済み。

#### 中国市場への取組

- ・中国市場戦略の中核を担う出資先「上海チャレンジテキスタイル」は設備増強により、従来のテキスタイル製品中心からカットソー縫、布帛縫製品まで一貫生産可能な工場として11月に本格稼働を開始。中国でもトップレベルの技術を有する同社を軸に、ミラノ・ニューヨーク等の現地法人の活用を通じた欧米市場向け製品展開にも注力。

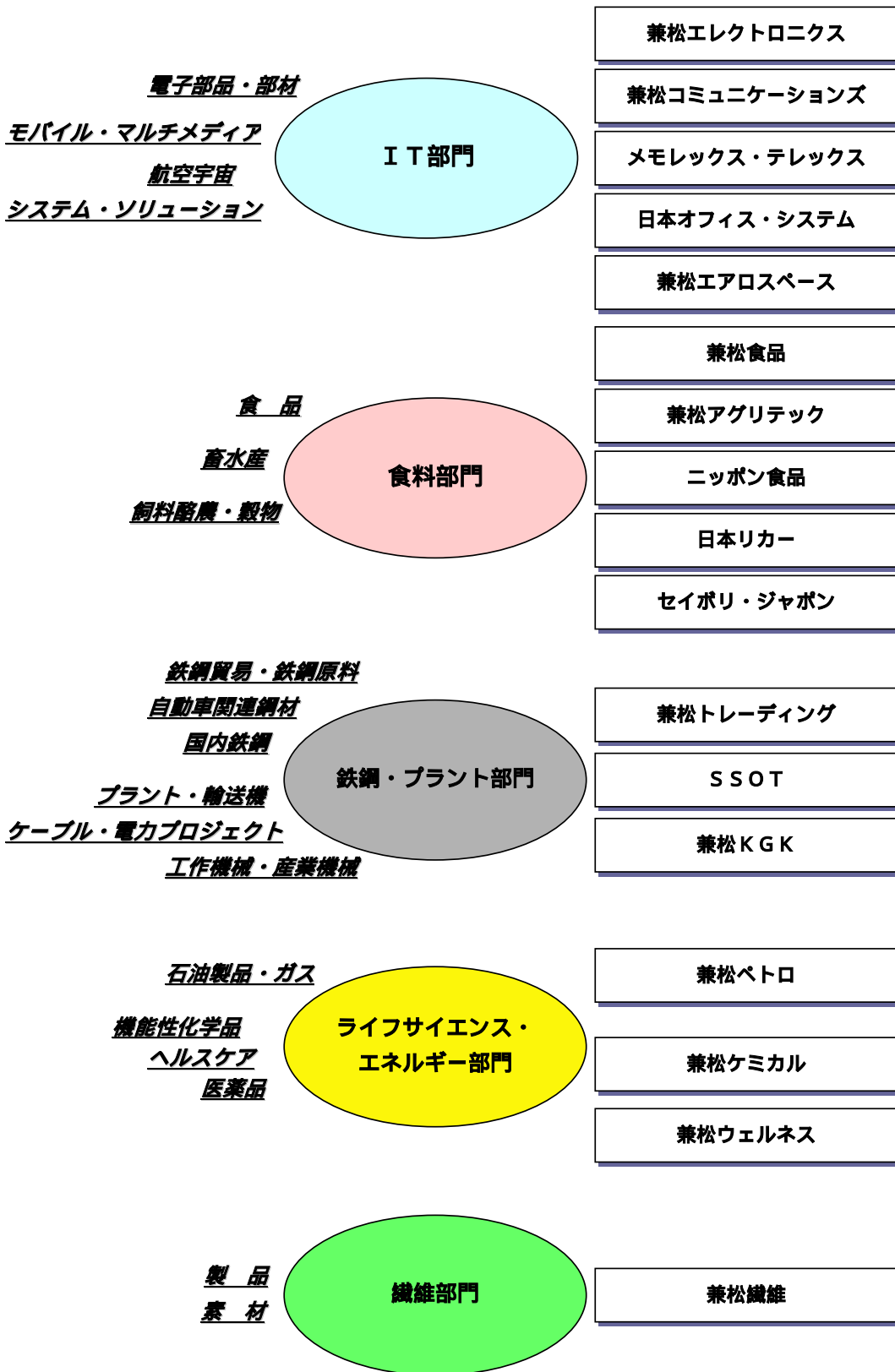
### (4) 平成17年9月中間期実績

	平成16年9月 中間期実績	平成17年9月 中間期実績	[単位:百万円] 前年 同期比
売上	29,103	27,911	1,192
売上総利益	2,625	2,392	233
売上総利益率	9.0%	8.6%	0.4%
営業利益	706	473	233

原料テキスタイル、レディース製品分野の苦戦により 売上高・売上総利益ともに減少、各種新規事業取組に伴う先行投資もあって営業減益となった。

『高付加価値のファッション』をKey Wordとした「提案型ビジネス」を中心に継続的な付加価値創造取引と新機軸案件の進展に注力し、通期ベースでの増益を目指す。

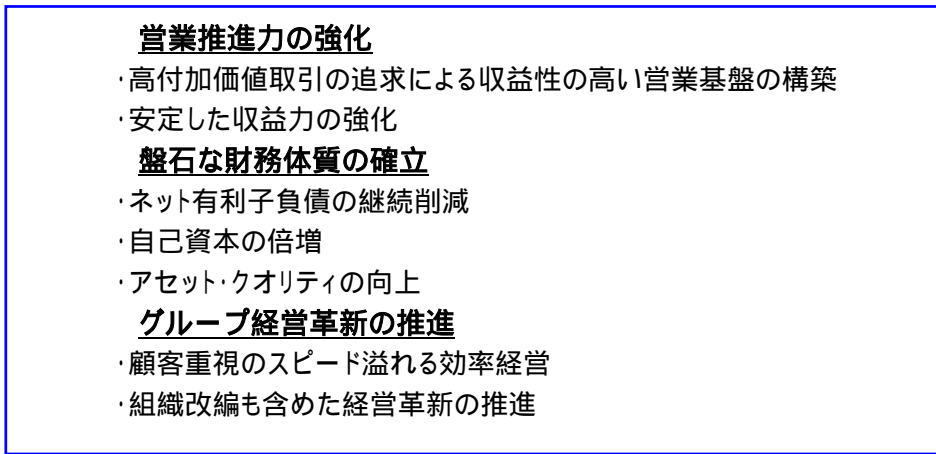
(ご参考) 兼松グループの概要



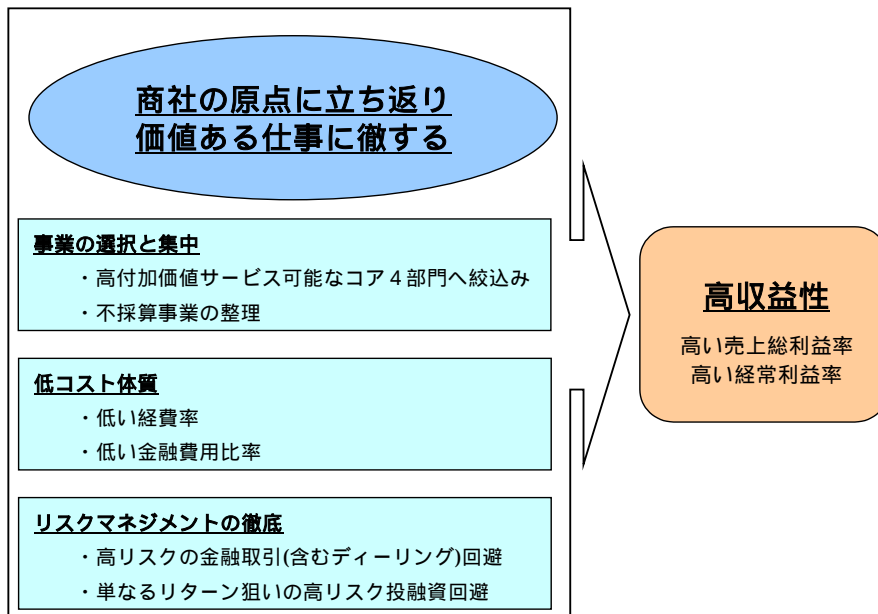
# . 中期経営計画「NewKG200」について

(平成16年4月～平成19年3月)

## 中期経営計画「NewKG200」について



(1) 兼松のビジネスモデル  
 新生兼松の特徴



ビジネスモデル



(2) 目標

**重点目標(計画最終年度:平成19年3月期)**

・連結経常利益	200億円
・連結当期純利益	100億円
・ネット有利子負債	2,500億円
・ネットDER	6倍
・資金効率(投下資本経常利益率)	6%以上

計数目標

収益

(単位:百万円)

	中期経営計画「NewKG200」		
	平成17年3月期 (実績)	平成18年3月期 (計画)	平成19年3月期 (計画)
売上高	886,876	935,000	1,000,000
売上総利益	68,142	74,500	80,000
売上総利益率	7.7%	8.0%	8.0%
営業利益	15,762	21,000	24,500
営業利益率	1.8%	2.2%	2.5%
経常利益	11,720	16,000	20,000
経常利益率	1.3%	1.7%	2.0%
当期純利益	2,469	6,000	10,000

バランスシート

(単位:百万円)

	中期経営計画「NewKG200」		
	平成17年3月期 (実績)	平成18年3月期 (計画)	平成19年3月期 (計画)
総資産	520,118	500,000	500,000
ネット有利子負債	261,560	265,000	250,000
自己資本	38,029	32,000	42,500
自己資本比率	7.3%	6.4%	8.5%
ネットDER	6.9	8.3	5.9
資金効率 *1	3.9%	5.4%	6.8%
ROE	8.0%	20.9%	26.8%
有利子負債返済所要年数(年) *2	13.9	11.0	9.1

\*1. 資金効率 = 経常利益 / (ネット有利子負債 + 自己資本)

\*2. 有利子負債返済所要年数 = ネット有利子負債 / 減価償却前営業利益

## (ご参考) 新生兼松の歩み

### 構造改革計画（平成 11 年 5 月～平成 13 年 3 月） “ 再建の 2 年間 ”

- 1) 果敢な事業の選択と集中
- 2) 徹底した合理化とコスト削減
- 3) 減増資と金融支援
- 4) 有利子負債の大幅削減と財務体質の強化

当初 3 ヶ年の目標を  
1 年前倒して達成

### 前中期経営計画（平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月） “ グループ経営基盤強化の 3 年間 ”

- 1) 強固な経営基盤の確立と営業基盤の開花による強い収益成長力
- 2) 有利子負債額及び金融コスト負担の抜本的削減
- 3) 繰越欠損金の早期一掃
- 4) 日本経済への貢献

### 中期経営計画「NewKG200」（平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月） “ 完全復活 ” ～ 第二の創業の仕上げ～

構造改革により、再建を果たした兼松の“第二の創業の仕上げ”として  
位置付け、「完全復活」を目指す。

平成 17 年 9 月中間期における進捗状況

**= 完全復活のための最終地固め =**

中間連結経常利益 59 億円      過去 10 年で最高水準

グループシナジーの強化

収益力強化に一定の目処

経常利益レベルでの順調な業績推移を踏まえ、来期以降の業績向上に弾みをつけるべく  
資産内容の一段の見直しを実施。

完全復活のための最終地固め

今期でほぼ全ての懸念要因を排除  
資産内容の格段の健全化により安定的な高収益体質への脱皮を図る

## 連結業績の推移

(単位:百万円)

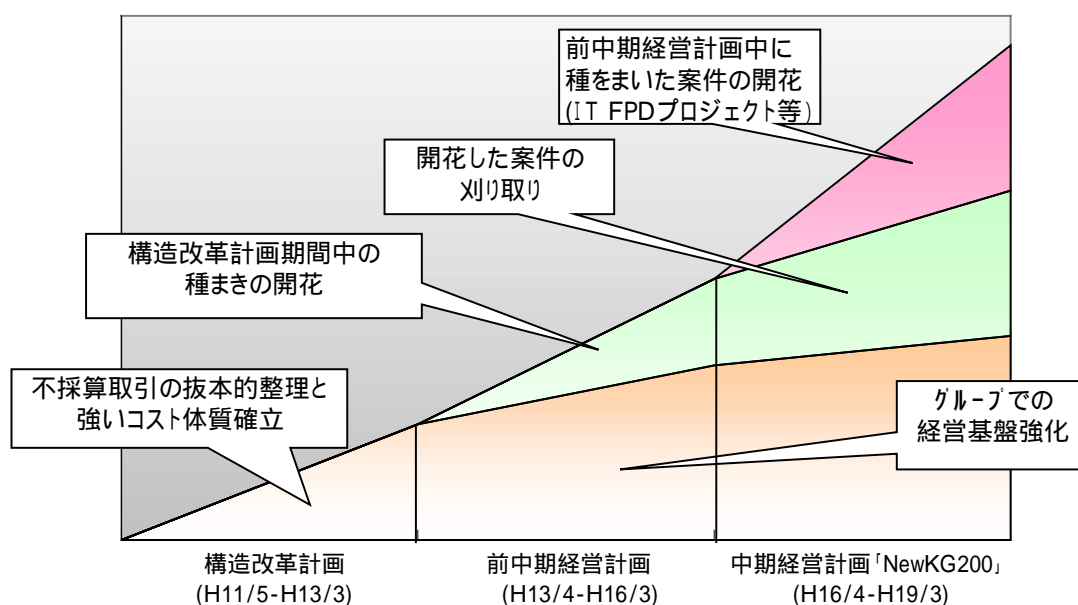
	構造改革計画		前中期経営計画			中期経営計画 「NewKG200」
	平成12年3月期 (実績)	平成13年3月期 (実績)	平成14年3月期 (実績)	平成15年3月期 (実績)	平成16年3月期 (実績)	平成17年3月期 (実績)
売上高	1,407,921	1,112,920	902,477	838,975	818,473	886,876
売上総利益 (売上総利益率)	92,299 (6.56%)	87,996 (7.91%)	73,540 (8.15%)	67,207 (8.01%)	62,208 (7.60%)	68,142 (7.68%)
営業利益 (売上高営業利益率)	14,507 (1.03%)	21,608 (1.94%)	15,779 (1.75%)	15,716 (1.87%)	13,554 (1.66%)	15,762 (1.78%)
経常利益 (売上高経常利益率)	2,560 (0.18%)	11,368 (1.02%)	11,735 (1.30%)	12,073 (1.44%)	10,706 (1.31%)	11,720 (1.32%)
当期純利益 (売上高当期純利益率)	12,446 (0.88%)	*3 17,252 (1.55%)	4,024 (0.45%)	2,233 (0.27%)	3,247 (0.40%)	2,469 (0.28%)
総資産	884,504	772,555	605,717	527,340	507,991	520,118
純資産(自己資本)	11,542	14,387	15,734	10,762	23,283	38,029
ネット有利子負債 *1	543,841	433,037	362,425	319,284	287,245	261,560
ネットDER(倍) *2	47.1	30.1	23.0	29.7	12.3	6.9
連結対象会社数	179	163	142	122	116	122

\* 1 . ネット有利子負債 = 有利子負債 - 現金及び預金

\* 2 . ネットDER = ネット有利子負債 / 自己資本

\* 3 . 税効果会計導入

## 再建から完全復活への成長イメージ



*(MEMO)*



. 参考資料(決算短信、貿易記者クラブ回答)

---

<http://www.kanematsu.co.jp>

---

2005年11月16日

 兼松株式会社

KANEMATSU CORPORATION

お問い合わせ先

〒105 - 8005 東京都港区芝浦1 - 2 - 1 シーバンスN館  
URL <http://www.kanematsu.co.jp>

広報室

Tel: 03.5440.8000 Fax: 03.5440.6503  
E-mail: [pr@kanematsu.co.jp](mailto:pr@kanematsu.co.jp)

IR事務局

Tel: 03.5440.8095 Fax: 03.5440.6505  
E-mail: [ir@kanematsu.co.jp](mailto:ir@kanematsu.co.jp)